

6:1 また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と言うのを私は聞いた。6:2 私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。6:3 小羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が、「来なさい」と言うのを聞いた。6:4 すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。これに乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。人々が、互いに殺し合うようになるためであった。また、彼に大きな剣が与えられた。6:5 小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい」と言うのを聞いた。私は見た。見よ。黒い馬であった。これに乗っている者は量りを手に持っていた。6:6 すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の間で、こう言うのを聞いた。「小麦一拵は一デナリ。大麦三拵も一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」6:7 小羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が、「来なさい」と言うのを聞いた。6:8 私は見た。見よ。青ざめた馬であった。これに乗っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。彼らに地上の四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。6:9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」6:11 すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい」と言い渡された。6:12 私は見た。小羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そして、太陽は毛の荒布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。6:13 そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。6:14 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。6:15 地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、6:16 山や岩に向かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。6:17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

導入

クリスマスの時期にルカの福音書を続けて学びましたが、今週からは黙示録の学びに戻ります。イースターの時期にもまた別のシリーズの学びをしますが、それ以外ではマルコの福音書を学んでいる毎月の聖餐式の日を除いては、黙示録の学びを継続していく予定です。

9月に黙示録の学びを始めた際にお話したとおり、黙示録の解釈については、聖書学者たちの間でも意見が異なります。

ヨハネはこの書が預言の書だと5度も繰り返しているのです、預言書として解釈すべきだと私は考えます。（黙示録 1:3, 22:7, 10, 18, 19）

ヨハネが記した内容は、ダニエルやゼカリヤの預言と同様に、すべて幻として彼が見たものです。聖書には預言書が含まれていますが、「この書は預言の書である」と書の中に記されているのは黙示録だけです。

1章は、この預言のことばを聞く者は神の祝福を受けると語ります。

私たちは7つの教会への手紙を学びましたが、その中で描かれているイエス・キリストのご性質に励まされました。

イエスは、忠実な証人、地上の王たちの支配者、始めであり終わりである方、死んだが今は生きているお方、私たちに新しい名を与えてくださるお方、罪の重荷から私たちを解き放ってくださるお方、いのちの木を与えてくださるお方、試練の時に守ってくださるお方、そして、私たちの心の扉の外に立ち、扉を叩き、私たちと親しい交わりを望んでくださるお方です。

ここに挙げたのは、7つの教会に語られたイエスのことばから私たちが学んだことのほんの一部です。

5章の学びでは、巻物の封印を解くにふさわしいお方は唯一イエスだけであることを学びました。

これから、イエスが解くことのできる封印の中に何があるのかを学びます。

6章には、6つの封印が登場します。では、ひとつずつ見ていきましょう。

1. 第一の封印、勝利者（1-2節）

第一の封印を解くと、白い馬に乗って、冠をかぶり、弓を持った者が現れました。この者は、「勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。」とあります。難しい内容が出てきた場合、常に、みことばからみことばを解釈する必要があります。まず、ゼカリヤ 6 : 1-8 に登場する預言を読みましょう。

6:1 私が再び目を上げて見ると、なんと、四台の戦車が二つの山の間から出て来ていた。山は青銅の山であった。 6:2 第一の戦車は赤い馬が、第二の戦車は黒い馬が、 6:3 第三の戦車は白い馬が、第四の戦車はまだら毛の強い馬が引いていた。 6:4 私は、私と話していた御使いに尋ねて言った。「主よ。これらは何ですか。」 6:5 御使いは答えて言った。「これらは、全地の主の前に立って後、天の四方に出て行くものだ。 6:6 そのうち、黒い馬は北の地へ出て行き、白い馬はそのあとに出て行き、まだら毛の馬は南の地へ出て行く。 6:7 この強い馬が出て行き、地を駆け巡ろうとしているのだ。」そこで彼が、「行って、地を駆け巡れ」と言うと、それらは地を駆け巡った。 6:8 そのとき、彼は私にこう告げた。「見よ。北の地へ出て行ったものを。それらは北の地で、わたしの怒りを静める。」

ゼカリヤは、地上に放たれた 4 頭の馬について語ります。これらの馬が放たれたのは、バビロンとエジプト、および神の民をしいたげた国々に報復するためです。

ヨハネもゼカリヤも、神の裁きの器として馬を見ました。

封印が解かれるごとに、新たな恐怖が地上に降りかかります。

この白い馬に乗っている者がイエス・キリストだと解釈する聖書学者もいますが、そうではありません。

イエスは、黙示録 19 : 11-12 で白い馬に乗ったお方として描かれています。19 章のイエスは 6 章と違う冠をかぶっています。

19 章に登場する冠は、ギリシャ語の「ダイアDEM」であり、王冠を意味します。しかし、6 章 2 節の冠はギリシャ語で「ステファノス」です。これは、勝利者の冠です。

ここで描かれているのは、神が誰かを用いて、地上に御怒りを注がれる様子です。

ローマ帝国時代、新しい領土の占拠を祝うときには、ローマ兵の大將は白い馬の引く戦車に乗って町中をパレードしました。

この白い馬に乗った人物の正体について教えてくれるもうひとつの証拠は、彼が持っているものです。彼は弓を持っているとあります。

旧約聖書では、弓は常に軍事力のしるしです。

エレミヤ 51:56 荒らす者がバビロンを攻めに来て、その勇士たちは捕らえられ、その弓も折られる。

【主】は報復の神で、必ず報復されるからだ。

ホセア 1:5 その日、わたしは、イズレエルの谷でイスラエルの弓を折る。」

詩篇 46:9 主は地の果てまでも戦いをやめさせ、弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれた。

ですから、ヨハネの時代の読者にも、現代の私たちにも、この最初の馬が軍事的勝利を意味することは明らかです。

終わりのとき、つまり、イエス・キリストの復活から私たちが生きるこの時代に、神は軍事的勝利をとおして地上に御怒りを注がれるということです。

再臨の日に近づくに従って、これらの戦争が世界中のすべての人に多大な影響を及ぼすことになるでしょう。

私たちの住む世界は、国家間が密接に関わる「世界村」であり、それぞれの国は生き残りをかけて戦っています。

マタイ 24 : 6 では、戦争のことや戦争のうわさを聞くようになることが、イエスの再臨のしるしのひとつとして挙げられています。

現代の世界情勢で注目すべきは、経済大国や軍事大国です。このような国のために私たちは祈らなければなりません。

2. 第二の封印、地上の争い (3-4 節)

第二の封印が解かれると、ヨハネはもう一頭の馬を見ました。それは、火のように赤い馬でした。ヨハネの説明を読むと、この馬に乗っている者の目的は明らかです。

この者は、地上から平和を奪い取ることが許されたとあります。

こうして、人々が互いに殺し合うようになります。

戦争犠牲者以外に、世界中で年間少なくとも 43 万 7 千人の人々が理由もなく殺されています。

イザヤやゼカリヤによると、ここに記されたヨハネの預言は終末の描写と合致します。

イザヤ 19:2 わたしは、エジプト人を駆り立ててエジプト人にはむかわせる。兄弟は兄弟と、友人は友人と、町は町と、王国は王国と、相逆らって争う。

ゼカリヤ 14:13 その日、【主】は、彼らの間に大恐慌を起こさせる。彼らは互いに手をつかみ合い、互いになぐりかかる。

イエスの再臨が近づくとつれ、人間関係の完全な崩壊が起こります。

私たちの住む世界では、そのようなことが起こるのを簡単に想像できてしまいます。

過去 15 年間で、アメリカ同時多発テロから、英国人を殺した英国生まれのイスラム教徒の勧誘まであらゆることが起こりました。

なぜこのようなことが起こっているのでしょうか。

原因は、憎しみと頑なな心です。

また、これらに対して神の御怒りが注がれているからです。

「…することが許された」という 4 節のみことばに注目してください。これは、神がご自身の目的のためにこのようなことが起こるのを許可しておられるということです。

私たちが戦争で死ぬのか、近所の人に殺されるのかということが重要なではありません。大切なのは、私たちは神の御怒りから救われて永遠に生きられるかということです。

イエスを自らの救い主として受け入れ、愛しているなら、私たちは永遠に安全です。

もちろん、いつかは死にますが、それで終わりではありません。

神はご自身の子どもたちを死からよみがえらせ、罪も死も悪もない新しい世界を始めるご計画をお持ちです。

私たちは恐ろしい世の中に生きていますが、この神のご計画は、すべてのクリスチャンを大いに励ましてくれます。

現在、日本は世界でもっとも安全な国のひとつですが、それでも年間約 1,000 人の人々が殺されています。

この 2017 年に日本人の方々のために私たちができる何よりも大切なことは、主イエス・キリストの福音を分かち合うことです。

簡単なことではありません。拒絶されることもあるでしょう。しかし、神の御子イエス・キリストの死による赦しのメッセージは、私たちが提供できる最高のものです。

今年、自分の信仰を分かち合うためにあなたは何をしようと思いませんか。

3. 第三の封印、地上の飢きん (5-6 節)

第三の封印が解かれると、ヨハネは黒い馬を見ました。そこには、量りを手に持った者が乗っていました。

ヨハネは、「小麦一拵は一デナリ。大麦三拵も一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」という声を聞きました。

当時のイスラエルのおもな産物は、とうもろこし、ぶどう酒、そして油でした。

旧約聖書では、土地の説明をするときに常にこれらの 3 つの産物が登場します。

(申命記 7:13, 11:14, 28: 51, ホセア 2 : 8、22)

また、当時の食物配給は一人当たり小麦一拵か大麦三拵で、当時の日給は一デナリでした。

ですから、ヨハネがここで言っているのは、食糧不足になる日が来るということです。

ひとりの人が一日に食べる食物を買うのに、ひとり分の日給が必要になるということです。つまり、結婚して子どもがいれば、生活は非常に苦しくなります。

ヨハネは、世界的な食糧不足の時代をあらかじめ語っているわけです。

今後 10-30 年の間にこのようなことが起こっても不思議はありません。
世界の富の 9 割はたった 1%の人間に牛耳られているのです。
ですから、中間層にいた人々が簡単に貧困に陥ります。
いつそうなるかは私にはわかりませんが、いつか必ずそうなることは分かっています。

4. 第四の封印、地上の多くの人々が死ぬ。(7-8 節)

第四の封印が解かれると、ヨハネは恐ろしい様子を目にします。
青ざめた馬に「死」と「ハデス」と呼ばれる者が乗っていました。
彼らには、地上の 4 分の 1 の人々を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す力が与えられました。
ヨハネは、ユダヤ人の人たちが理解できることばで語っています。

エゼキエル 14 : 21 を読みましょう。

エゼキエル 14:21 まことに、神である主はこう仰せられる。人間や獣を断ち滅ぼすために、わたしが剣とききんと悪い獣と疫病との四つのひどい刑罰をエルサレムに送るとき、

また、レビ記 26 : 21-26 にも、神に背いた民に対して神が送られた罰について語る個所があります。

レビ記 26 : 21-26

26:21 また、もしあなたがたが、わたしに反抗して歩み、わたしに聞こうとしないなら、わたしはさらにあなたがたの罪によって、七倍も激しくあなたがたを打ちたたく。 26:22 わたしはまた、あなたがたのうちに野の獣を放つ。それらはあなたがたから子を奪い、あなたがたの家畜を絶えさせ、あなたがたの人口を減らす。こうしてあなたがたの道は荒れ果てる。 26:23 もし、あなたがたがこれらのわたしの懲らしめを受け入れず、わたしに反抗して歩むなら、 26:24 わたしもまた、あなたがたに反抗して歩もう。わたしはまた、あなたがたの罪に対して七倍も重くあなたがたを打とう。 26:25 わたしはあなたがたの上に剣を臨ませ、契約の復讐を果たさせよう。またあなたがたが自分たちの町々に集まる時、わたしは、あなたがたの間に疫病を送り込む。あなたがたは敵の手に落ちる。 26:26 わたしが、あなたがたのパンのための棒を折るとき、十人の女が一つのかまであなたがたのパンを焼き、はかりにかけて、あなたがたのパンを返す。あなたがたは食べても、満ち足りない。

神がご自身の民の背きを裁かれたように、神に背く人々と国々を裁かれます。
罪がもたらす結果を避けることはできません。

5. 第五の封印、殉教者たちの叫び (9-11 節)

第五の封印が解かれると、ヨハネは神のみことばとその証のために殺された人々を見ました。
彼らは、「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」と大声で叫んでいました。
この殉教者たちに対して、「殉教者の数が満ちるまで待つように」という答えが返ってきました。
また、彼らに白い衣が与えられたとも記されています。

詩篇 79 : 5-10

79:5 【主】よ。いつまででしょうか。あなたは、いつまでもお怒りなのでしょうか。いつまで、あなたのねたみは火のように燃えるのでしょうか。 79:6 どうか、あなたを知らない国々に、御名を呼び求めない王国の上に、あなたの激しい憤りを注ぎ出してください。 79:7 彼らはヤコブを食い尽くし、その住む所を荒らしたからです。 79:8 先祖たちの咎を、私たちのものとして、思い出さないでください。あなたのあわれみが、すみやかに、私たちを迎えますように。私たちは、ひどくおとしめられていますから。 79:9 私たちの救いの神よ。御名の栄光のために、私たちを助けてください。御名のために、私たちを救い出し、私たちの罪をお赦してください。 79:10 なぜ、国々は、「彼らの神はどこにいるの

か」と言うのでしょうか。あなたのしもべたちの、流された血の復讐が、私たちの目の前で、国々に思い知らされますように。

詩篇の著者はこのように叫び、神が働いておられないように思えることに驚いていました。神は何もなさらないのでしょうか。

それでも、詩篇の著者は神が最終的に行動を起こされることを疑いませんでした。

いつの日か、神は、正しい人たちに報いてくださいます。

いつの日か、神は、選ばれた人々を殺した者たちを罰せられます。

いつの日か、地上の殉教者たちは神に裁かれます。

しかし、それがいつ起こるのかは神ご自身がお決めになります。

ユダヤの人々は、終わりの時が来る前に、歴史のドラマが完結すると信じていました。

神は定められた時まで行動を起こされません。

人は、自分の願うときに物事が進むことを望みますが、神はご自身のときに物事を進められます。

地上でおそらくもっとも知恵のある人、ソロモン王は言いました。

「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。」（伝道者 3 : 1）

伝道者の書 3 章で、ソロモンは神の時に起こる人生の出来事を挙げています。

3 章 14-15 節をここでお読みしましょう。

伝道者 3 : 14-15

3:14 私は知った。神のなさることはみな永遠に変わらないことを。それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。神がこのことをされたのだ。人は神を恐れなければならない。**3:15** 今あることは、すでにあったこと。これからあることも、すでにあったこと。神は、すでに追い求められたことをこれからも捜し求められる。

「殉教者」たちが神に裁きを求めたことを批判するのは簡単ですが、信仰のために拷問を受けて殺されるという経験をするまでは、彼らを裁くべきではありません。

6 章に登場する最後の封印は、天変地異です。

6. 第六の封印、天変地異（12-17 節）

この個所に記されているのは、旧約聖書に登場する終末についての教えです。

ヨエル 2 章は、「主の日」について語ります。**10 節**には、「その面前で地は震い、天は揺れる。太陽も月も暗くなり、星もその光を失う。」と記されています。

また、新約聖書にも次のような警告があります。

マタイ **24:29** だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。

マルコ 13 : 24-26

13:24 だが、その日には、その苦難に続いて、太陽は暗くなり、月は光を放たず、**13:25** 星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。**13:26** そのとき、人々は、人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。

これは、ヨハネが見たものと非常に似た描写です。

このことが起こると、すべての人が神の御怒りの大いなる日が来たことを認めます。誰がその日に耐えることができるでしょう。

信徒は黙示録の預言が読まれるのを聞いて神から祝福を得る、と記されています。

この章では、数々の災いが起こると記されているので、ここにどんな祝福があるのかと考えてしまいます。

適用

この章から受ける祝福とは、私たちがイエスを自らの救い主として知り、神の子に与えられた約束を握りしめることができるということです。

まだクリスチャンでない人は、未来の悪い知らせの中に、ひとつの良い知らせがあります。

それは、今日が救いの日であるということです。今日、あなたもイエス・キリストを自らの救い主として受け入れることができます。

私は皆さんに、明日の保証は何もできませんが、今日イエス・キリストのもとに来るよう招くことはできます。

イエスのもとに来れば、罪の赦しを約束してくださいます。それは、神が要求された罪の罰をイエスの死が全うしたからです。

また、心の平安と、周囲の状況に左右されない喜びを約束してくださいます。

イエスは、あなたを決して見放したり見捨てたりなさいません。

パウロはローマ 8 : 38-39 で語ります。

ローマ 8 : 38-39

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、 **8:39** 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

イエスのもとに来れば、死でさえも、永遠のいのちとすばらしい未来への入口となるのです。

今日は、神が怒りの神であられ、この世界の神に背くすべての人にご自身の御怒りを注がれることがわかりました。

しかし、神は愛の神でもあられます。神は私たちが神の御怒りを受けることを望まれません。だからこそ、イエス・キリストを御怒りの代わりに受け入れるように招いてくださるのです。

あなたはイエスを選びますか。それとも神の愛を無視しますか。

死んでしまったらやり直しのチャンスはありません。

ヘブル 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

アーメン。